

2026年 2 月期 第 2 四半期決算説明資料

2025年10月15日

株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス（証券コード：2884）

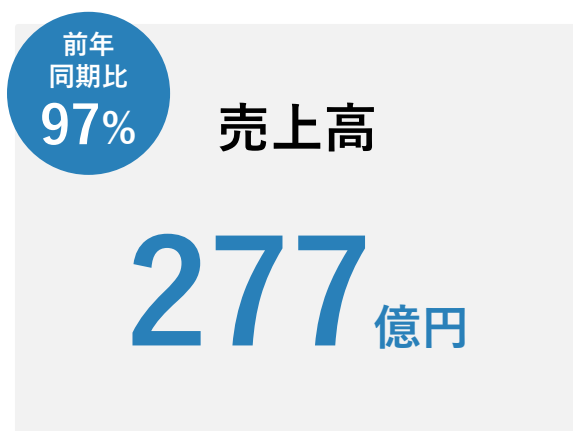
- | **1** 2026年2月期 2Q決算ハイライト
- | **2** 2026年2月期 2Q決算詳細
- | **3** トピックス
- | **4** Appendix

(注) 2025年2月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年2月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

2026年 2 月期 2 Q決算ハイライト



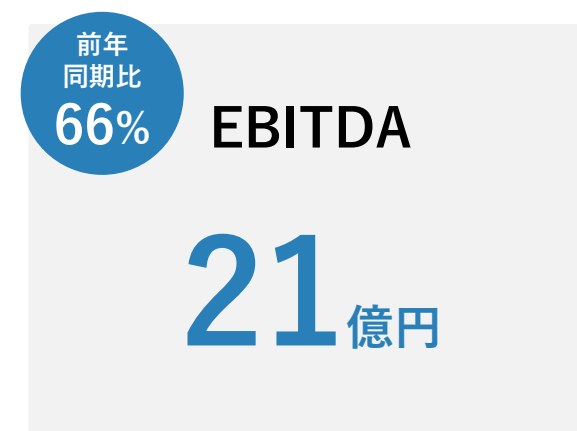
売上高は前年同期比97% 営業利益・EBITDAは減少



単位：億円



単位：億円



単位：億円

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ コロナ関連補助金収入 - 国庫補助金収入 + M&A取得関連費用

国内事業は増収減益、海外事業は減収減益となる。
減益の主な要因は、国内は利益率の高いホタテ貝柱の販売量が減少したこと、
海外はシンガポールの景気減速が影響。

	2025年2月期 2Q		2026年2月期 2Q		前年同期比
(単位：百万円)					
		構成比		構成比	
売上高	28,738	100.0%	27,765	100.0%	▲ 3.4%
営業利益	1,930	6.7%	921	3.3%	▲ 52.3%
経常利益	1,937	6.7%	872	3.1%	▲ 54.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	806	2.8%	528	1.9%	▲ 34.5%
EBITDA	3,165	11.0%	2,103	7.6%	▲ 33.6%

- 国内事業は、ホタテ貝柱の販売量の減少、特に中国による日本産水産物の輸入禁止措置を受けて帳簿価額を引き下げた棚卸資産の販売がなくなったことにより減益となる。
- 海外事業は、シンガポールの景気減速の影響、また、前期に実施したホタテの原料販売がなくなったことにより減収減益となる。

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

国内事業は堅調に推移したものの、シンガポールの景気減速等の影響を受けて海外事業の売上高が減少したことで、前年同期より減収となる。

売上高

前年同期比

277.6億円 ▲**3.4%**

■ 国内事業

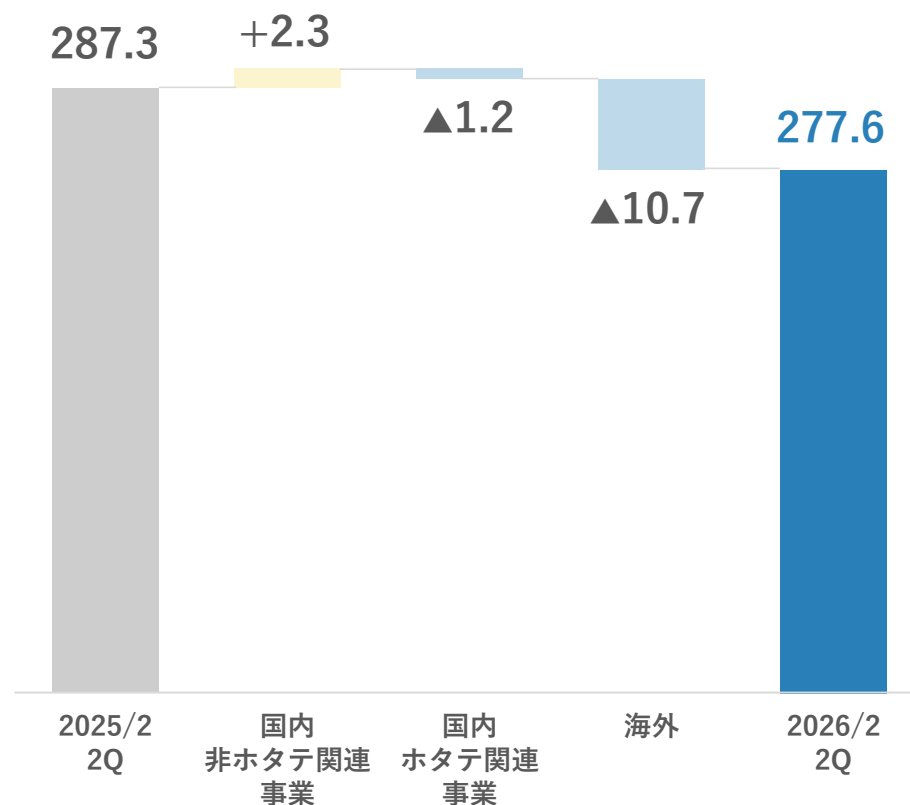
非ホタテ関連事業は増収となったものの、ホタテ関連事業は、ホタテの販売単価は上昇した一方で、販売量が減少したことで減収となる。

■ 海外事業

シンガポールにおける景気減速の影響が続き、飲食店、ホテル、スーパー向けの販売が低迷したこと、及び前期に行ったホタテの原料販売が当期はなくなったことにより減収となる。

売上高の内訳

単位：億円



国内事業は、ホタテ貝柱の販売量が減少したこと（特に帳簿価額を引き下げたホタテの販売がなくなったことによる反動減）により減益となる。
海外事業は、シンガポールの景気減速等の影響により減益となる。

営業利益

前年同期比

9.2億円

▲52.3%

■ 国内事業

非ホタテ関連事業は、前年同期と同水準で推移。

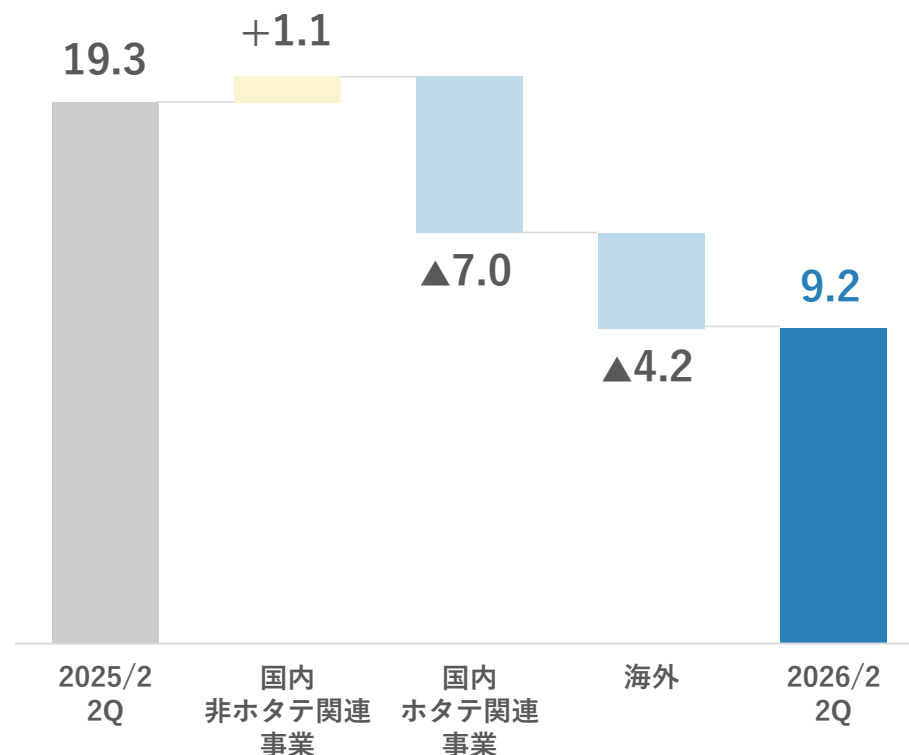
ホタテ関連事業は、利益率の高いホタテ貝柱の販売量が減少したこと、特に中国による日本産水産物の輸入禁止措置を受けて帳簿価額を引き下げた棚卸資産の販売がなくなったことにより減益となる。

■ 海外事業

シンガポールの景気減速による売上減少の影響、及び前期に行ったホタテの原料販売が当期はなくなったこと等により減益となる。

営業利益の内訳

単位：億円



経常利益及びEBITDAの推移

経常利益及びEBITDAは、営業利益の減少に加え、支払手数料を計上したことで減少。

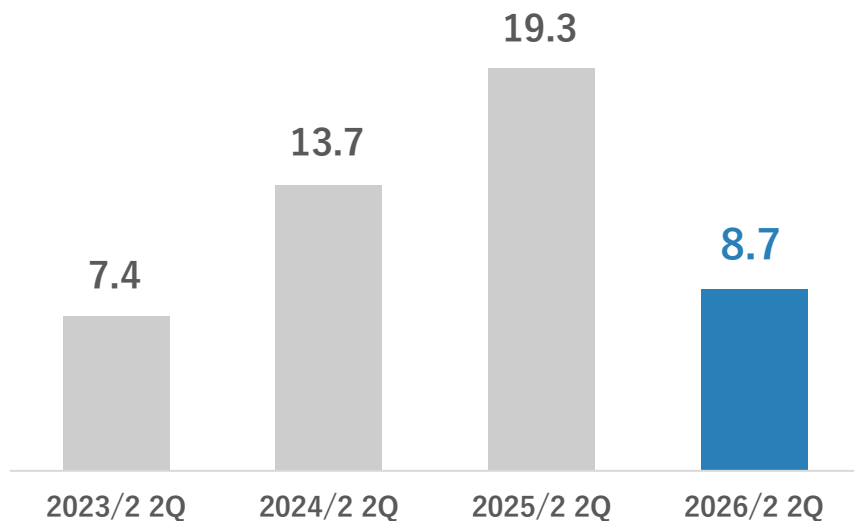
経常利益

前年同期比

8.7億円

▲54.9%

単位：億円



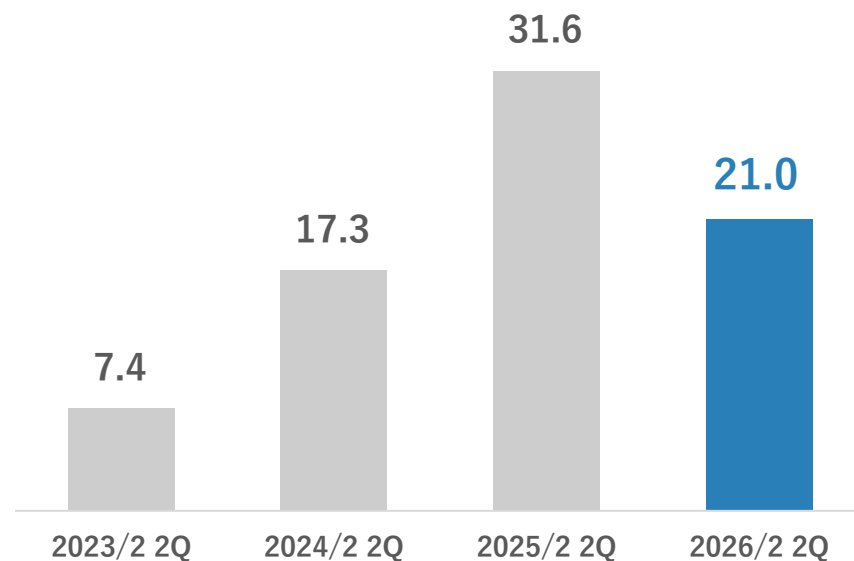
EBITDA

前年同期比

21.0億円

▲33.6%

単位：億円



(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

2026年2月期 業績見込修正（下方修正）

シンガポールの景気減速による海外事業への影響と、ホタテ原料の仕入量減少によるホタテ製品の販売量減少を見込み、今期の業績見込を修正。

(単位：百万円)	2026年2月期 業績見込		修正前比		2025年2月期 実績比		
	修正前	修正後	差額	差異率	実績	差額	差異率
売上高	60,700 ~ 63,700	56,400	▲4,300 ~▲7,300	▲7.1% ~▲11.5%	58,110	▲1,710	▲2.9%
営業利益	3,000 ~ 4,000	2,000	▲1,000 ~▲2,000	▲33.3% ~▲50.0%	4,161	▲2,161	▲51.9%
経常利益	2,900 ~ 3,900	1,950	▲950 ~▲1,950	▲32.8% ~▲50.0%	4,251	▲2,301	▲54.1%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,120 ~ 1,580	850	▲270 ~▲730	▲24.1% ~▲46.2%	1,861	▲1,011	▲54.3%
EBITDA	5,570 ~ 6,570	4,200	▲1,370 ~▲2,370	▲24.6% ~▲36.1%	6,626	▲2,426	▲36.6%

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

2026年 2 月期 2 Q決算詳細



連結損益計算書

(単位：百万円)	2025年2月期 2Q		2026年2月期 2Q		前年 同期比	2026年2月期 業績見込（修正後）	
		構成比		構成比		通 期	進捗率
売上高	28,738	100.0%	27,765	100.0%	▲ 3.4%	56,400	49.2%
売上総利益	6,517	22.7%	5,581	20.1%	▲ 14.4%	-	-
販管費	4,587	16.0%	4,660	16.8%	+ 1.6%	-	-
営業利益	1,930	6.7%	921	3.3%	▲ 52.3%	2,000	46.1%
経常利益	1,937	6.7%	872	3.1%	▲ 54.9%	1,950	44.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	806	2.8%	528	1.9%	▲ 34.5%	850	62.2%
EBITDA	3,165	11.0%	2,103	7.6%	▲ 33.6%	4,200	50.1%

(注) EBITDA = 営業利益 + 償却費（減価償却、のれん）+ M&A取得関連費用

連結貸借対照表

今後のホタテの漁獲量減少を見込み、ホタテの原料仕入を強化したことにより
棚卸資産と借入金が増加。自己資本比率は、借入金が増加したこと等により減少。

(単位：百万円)	2025年2月期末 時点	2026年2月期 2Q 時点	前期末比	備考
流動資産	32,448	37,337	+ 4,888	
現金及び預金	13,170	11,193	▲1,977	■ 現預金 棚卸資産の増加による減少
受取手形及び売掛金	8,186	8,270	+84	
棚卸資産	10,177	16,863	+6,686	■ 棚卸資産 主にホタテ原料の仕入による増加
固定資産	23,620	23,138	▲ 481	
有形固定資産	11,217	10,919	▲298	
のれん	6,580	6,686	+106	■ のれん Examas及びEquipmaxの株式取得により増加
顧客関連資産	3,544	3,360	▲184	
総資産	56,069	60,476	+ 4,407	
流動負債	20,479	24,189	+ 3,710	
借入金及び社債	12,434	15,979	+3,544	■ 借入金 棚卸資産の購入資金として 短期借入金が増加
固定負債	19,055	18,595	▲ 459	
長期借入金及び社債	16,476	16,037	▲438	
純資産	16,534	17,691	+ 1,156	■ 自己資本 自己資本比率は19.0% (前期末比▲0.7%)
自己資本	11,042	11,518	+475	

売上高の状況（セグメント別）

**ワイエスフーズは、ホタテの販売単価上昇に伴い増収。
海外子会社は、製造事業セグメント、販売事業セグメント共に減収。**

（単位：百万円）	2025年2月期 2Q	2026年2月期 2Q	前年同期比	備考
製造事業セグメント	23,356	23,032	▲1.4%	
ワイエスフーズ ※マタツ水産、清藤水産を含む	5,226	5,933	+13.5%	■ ワイエスフーズはホタテの販売単価上昇に伴い原料販売の売上（利益少）が増加し増収
楽陽食品	2,709	2,714	+0.2%	
Pacific Sorby	2,010	1,747	▲13.0%	
マルキチ	2,478	1,709	▲31.1%	■ マルキチは販売量の減少及び販売時期のずれ込みにより減収
NKR ※子会社3社を含む	1,905	1,627	▲14.6%	
オーブン	1,284	1,258	▲2.1%	
その他（18社）	7,740	8,041	+3.9%	■ Pacific Sorby、NKRは、シンガポールにおける景気減速の影響を受けて減収
販売事業セグメント	5,171	4,646	▲10.1%	
ヨシムラ・フード	2,961	2,921	▲1.4%	■ 2026年2月期より富強食品の連結開始
Sin Hin	1,432	960	▲32.9%	
その他（2社）	777	764	▲1.7%	
その他事業セグメント	209	86	▲58.8%	■ Sin Hinはホタテの原料販売がなくなったこと等により減収
合計	28,738	27,765	▲3.4%	

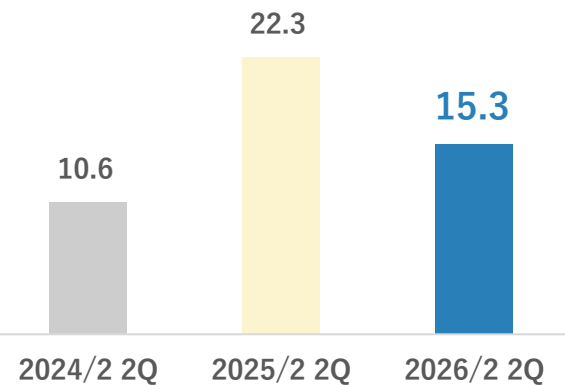
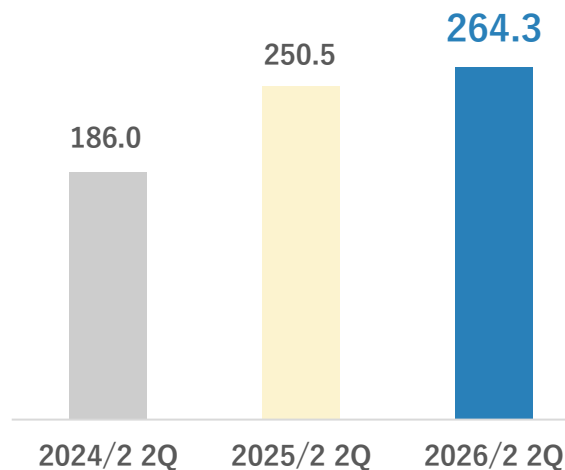
（注）上記売上高は、内部取引調整後の金額を記載しております。

単位：億円

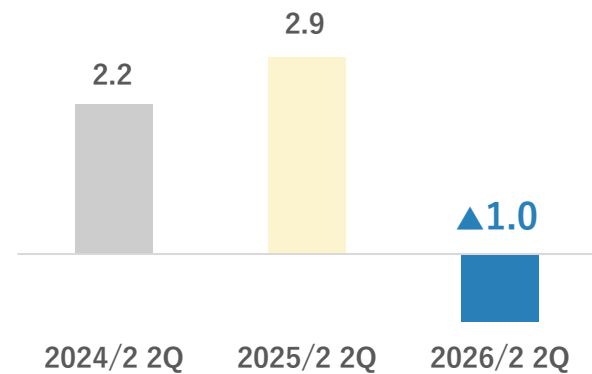
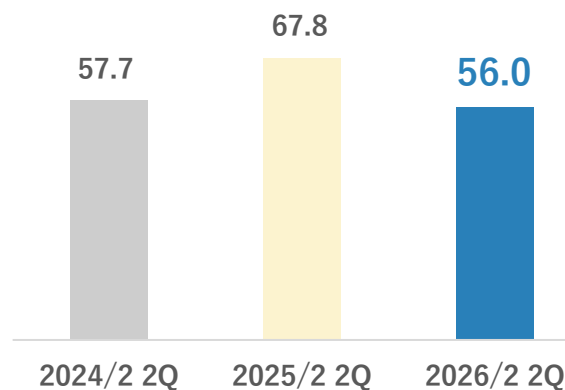
売上高

営業利益

国内



海外



(注) 売上高は、セグメント間の取引が含まれております。

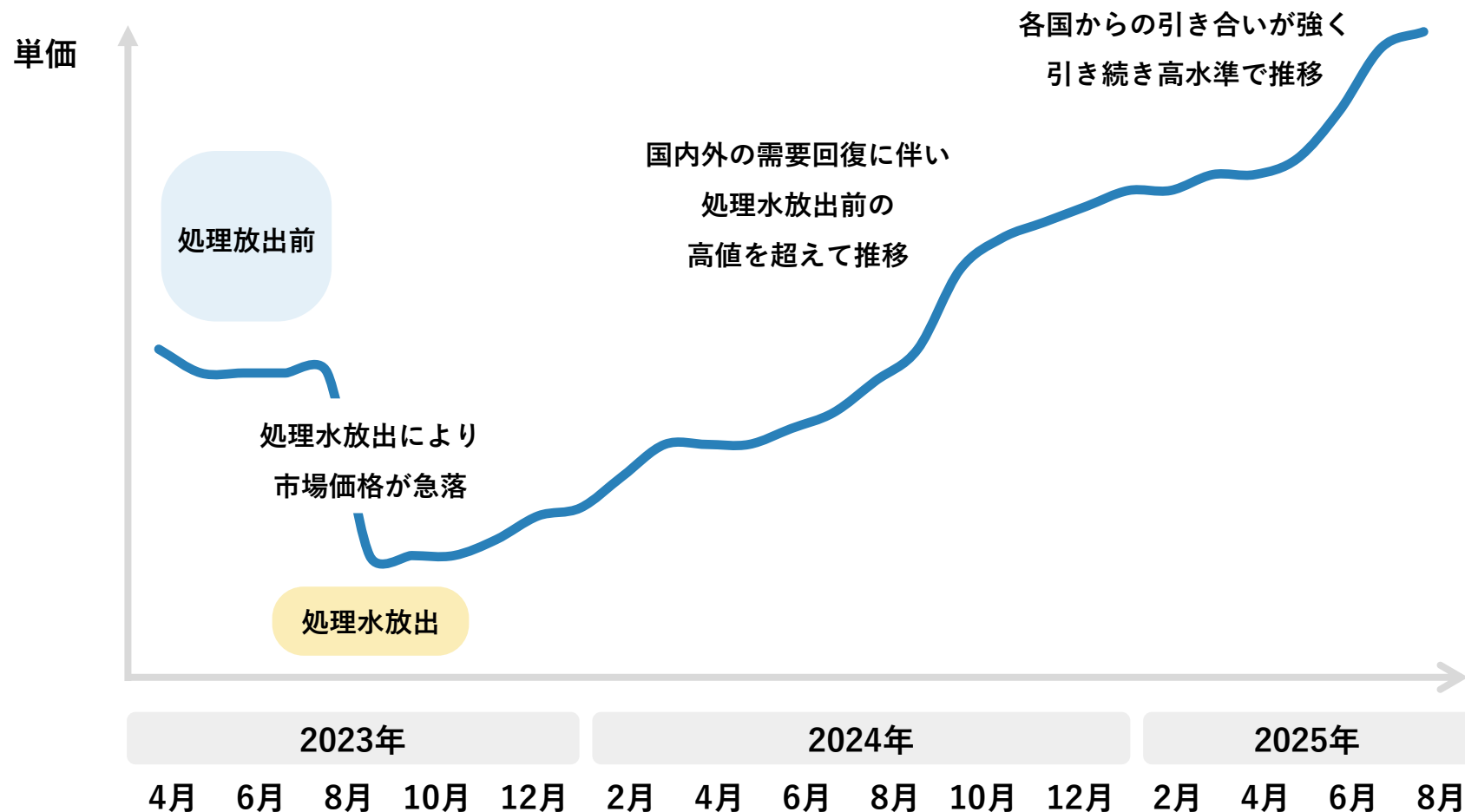
(注) 営業利益は、のれん償却額等を含めておりません。

トピックス



ホタテに対する世界的な需要は引き続き堅調で、販売価格は上昇傾向が続いている。
中国の水産物輸入再開を見据え、販売戦略を考えていく。

ホタテ貝柱の販売単価推移（当社販売価格を基準とした推定市場価格）



グループ各社では、業容拡大及び収益性向上に向けた取り組みを継続的に実施。
加えて、HDが主導してグループ横断での協業を推進し、グループ全体の成長を加速。

【事例】

楽陽食品

- シウマイの規格を12粒に統一し、生産ラインを最適化
 - 生産効率の向上・収益性の改善
- シウマイ成型機の入替など戦略的設備投資を実施
 - 品質の安定化・歩留まりの向上

純和食品

- 閑散期における受注拡大を推進
- 新規取引先へのOEM取引を拡大
 - 売上拡大・稼働率の向上・収益性の改善

林久右衛門商店

- グループ内人材の連携による新商品開発を推進し、新たな収益源を創出
 - 売上拡大・収益構造の強化

小林製麺 & 国分グループ本社

- 新ブランド商品の共同開発・販路拡大を推進
 - 販売数量拡大による原価低減・収益性の改善
- グループ内生産キャパシティの最大活用
 - 稼働率の向上・収益性の改善

オープン & 細川食品

- 2026年の合併に向け、組織体制・制度の統合を推進
 - 経営効率の向上・事業シナジー創出・ガバナンス体制の強化

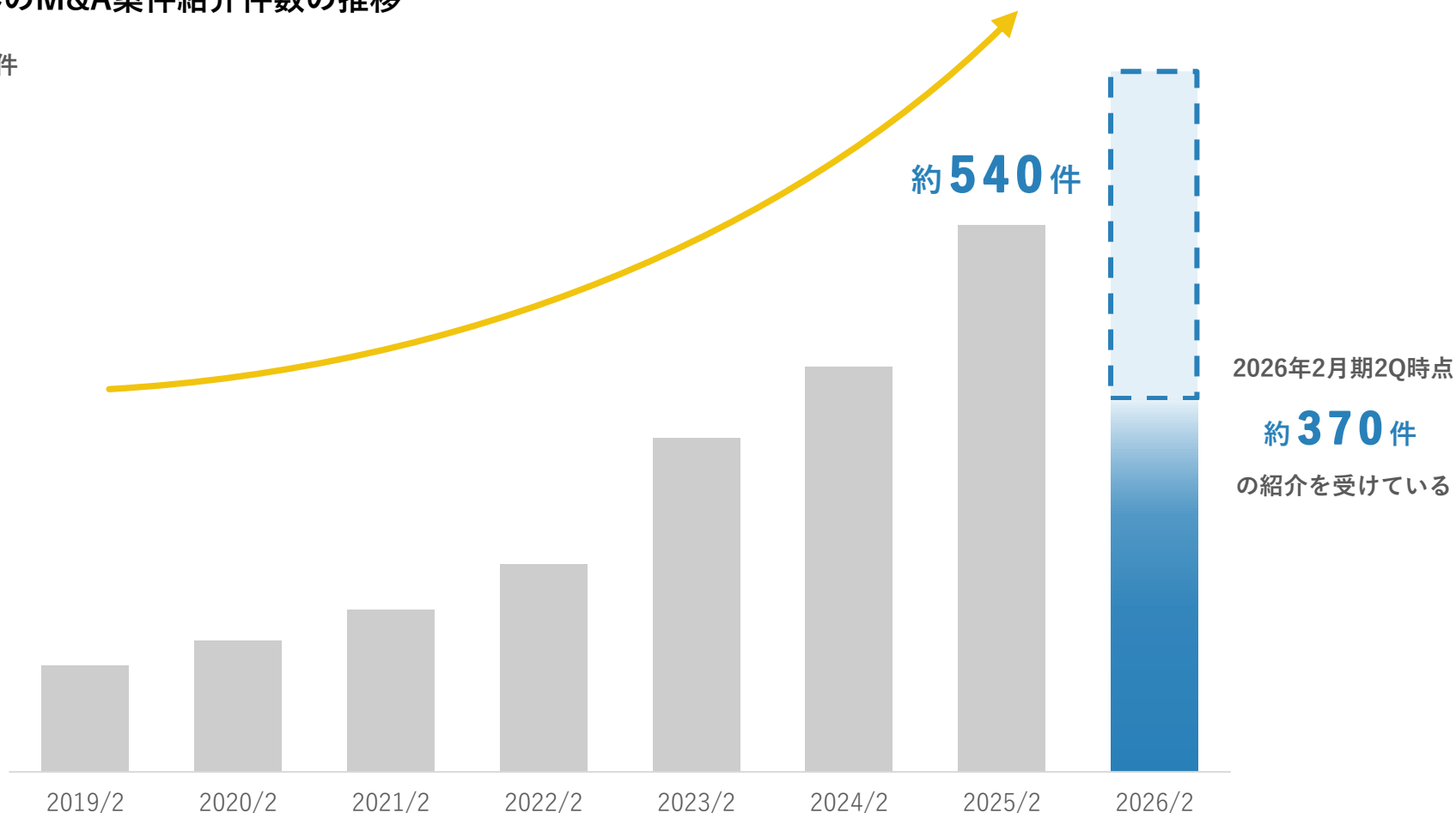
NKR & Examas

- 定期的な会議体を通じて、横断的なシナジー施策を検討（販路・メンテナンス部門の共有など）
 - 売上拡大・業務効率化

事業承継ニーズの拡大を追い風に、当社へのM&A案件の紹介件数は増加。
ロールアップ戦略・ニッチ市場戦略に合致する有望企業のM&A検討を進めている。

当社へのM&A案件紹介件数の推移

単位：件



Appendix



MISSION

いつまでも、この“おいしい”を楽しめる社会へ

～消費者が多様な食文化を享受できる豊かさの実現～

- 私たちは、人々が、多種多様な選択肢から自分の嗜好に合わせて自由に選択でき、それが尊重される社会こそ、豊かで幸せであると考えます。
- 私たちは、世界中の消費者が、多種多様で高品質な“おいしい”を自由に選択し、それを楽しめる豊かな社会を目指してまいります。

VISION

地域の“おいしい”を守り、育て、世界へ

- 私たちは、「いつまでもこの“おいしい”を楽しめる社会」を実現するため、日本および世界で大切にされてきた“おいしい”を見つけ、守り、育て、世界へと届けてまいります。
- そのために、私たち独自の“おいしい”を見つける目利き力、“おいしい”を守る事業基盤、“おいしい”を育てる支援機能、“おいしい”を世界へと届ける販売網を構築してまいります。
- その結果として、世界の食文化と多様化、地域社会の活性化を推進するグローバルプロデューサーとなります。

VALUES

「あなた“らしさ”を大切にします」

- 私たちは、私たちに関わる全ての方のあなた“らしさ”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループで働く社員の“個性”、“新しい発想”、“チャレンジ精神”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“歴史”、“文化”、“社員”、“取引先”、“地域社会”を大切にします。
- 私たちは、私たちのグループ企業が持つ“強み”を伸ばし、“弱み”を補い合い、共に成長してまいります。
- 私たちは、私たちに関わる全ての人の“らしさ”を大切にした結果、多様な選択肢のある豊かな社会づくりに貢献します。

会社概要

■ 社 名	株式会社ヨシムラ・フード・ホールディングス
■ 設 立	2008年3月18日
■ 代 表 者	代表取締役 C E O 吉村 元久
■ 本 社	東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル18階
■ 資 本 金	1,157百万円（2025年2月末現在）
■ 主 要 株 主	吉村元久 37%（株式会社MY保有分含む） 国分グループ本社(株) 5% 他
■ 連 結 業 績	売 上 高：58,110百万円 経常利益：4,251百万円（ともに、2025年2月期）
■ 従 業 員 数	連 結：1,934人 単 体： 29 人（ともに、2025年2月末現在）
■ 事 業 内 容	食品関連会社の株式を保有する持ち株会社。 子会社において各種食品の製造・販売。
■ 連結子会社数	38社
■ 市 場	東証プライム（2884）

代表取締役 C E O

吉村 元久 Motohisa Yoshimura

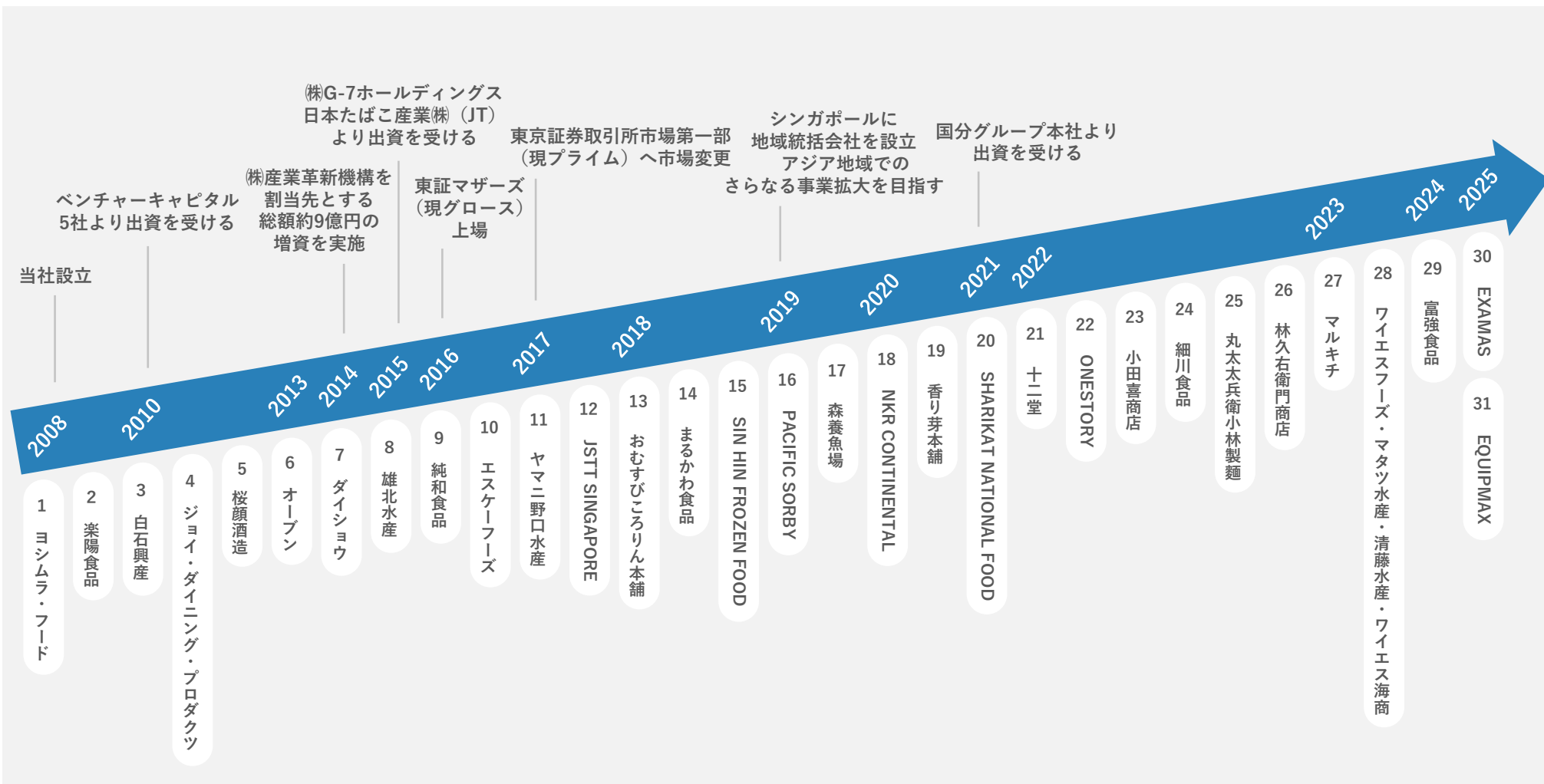


出 身 地 北 海 道 函 館 市

最終学歴 1988年3月 一橋大学商学部卒業
1994年6月 ペンシルバニア大学大学院
ウォートン校卒業（MBA）

職 歴 1988年4月 大和証券株式会社入社
事業法人部 上場企業の資金調達業務
1996年7月 同社 資産証券部 課長代理
資産の証券化業務
1997年10月 モルガン・スタンレー証券株式会社入社
事業法人部 エグゼクティブディレクター
コーポレートファイナンス業務
2008年3月 当社 代表取締役（現任）

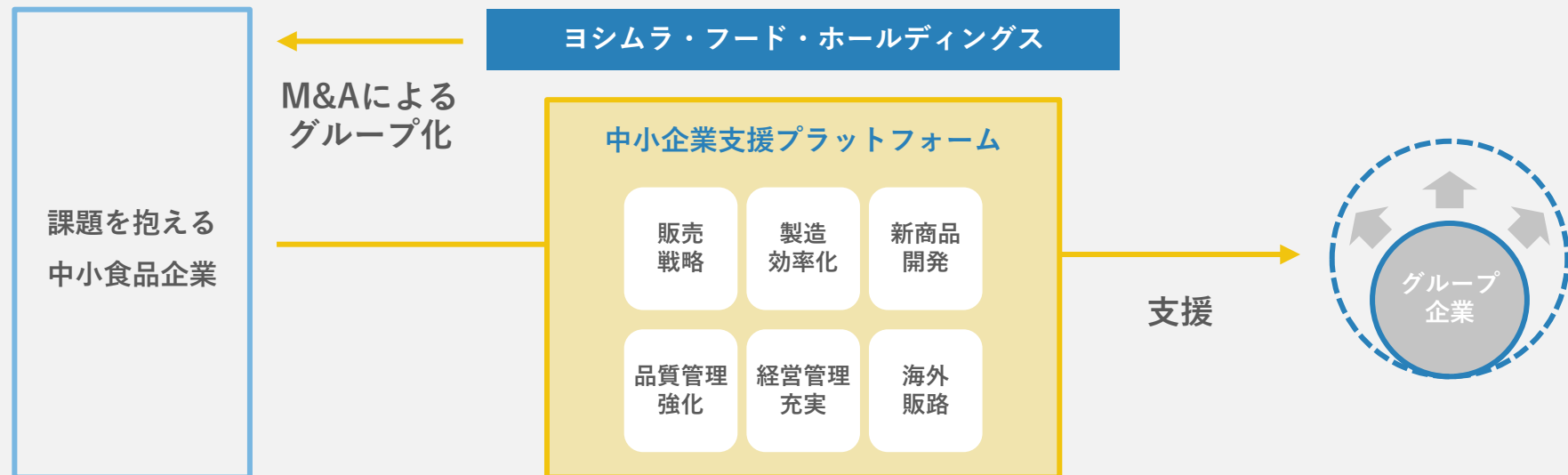
中小食品企業のM&Aと 当社ビジネスモデルへの共感企業からの出資の歴史



食品業界におけるユニークなビジネスモデルにより、
当社は**2つの成長エンジン**を有する

1. M&Aを通じたグループ化による成長

2. 経営支援及びグループ企業間の シナジー効果による成長



グループ会社を機能別に統括することで、相互補完・相互成長を図る仕組み

ヨシムラ・フード・ホールディングス

HD統括

【中小企業支援プラットフォーム】

セールス・マーケティング

商品開発

生産管理

購買・物流

品質管理

経営管理

海外販路

販売戦略

商品戦略・新商品

効率化

コストダウン

安心安全

経営効率化

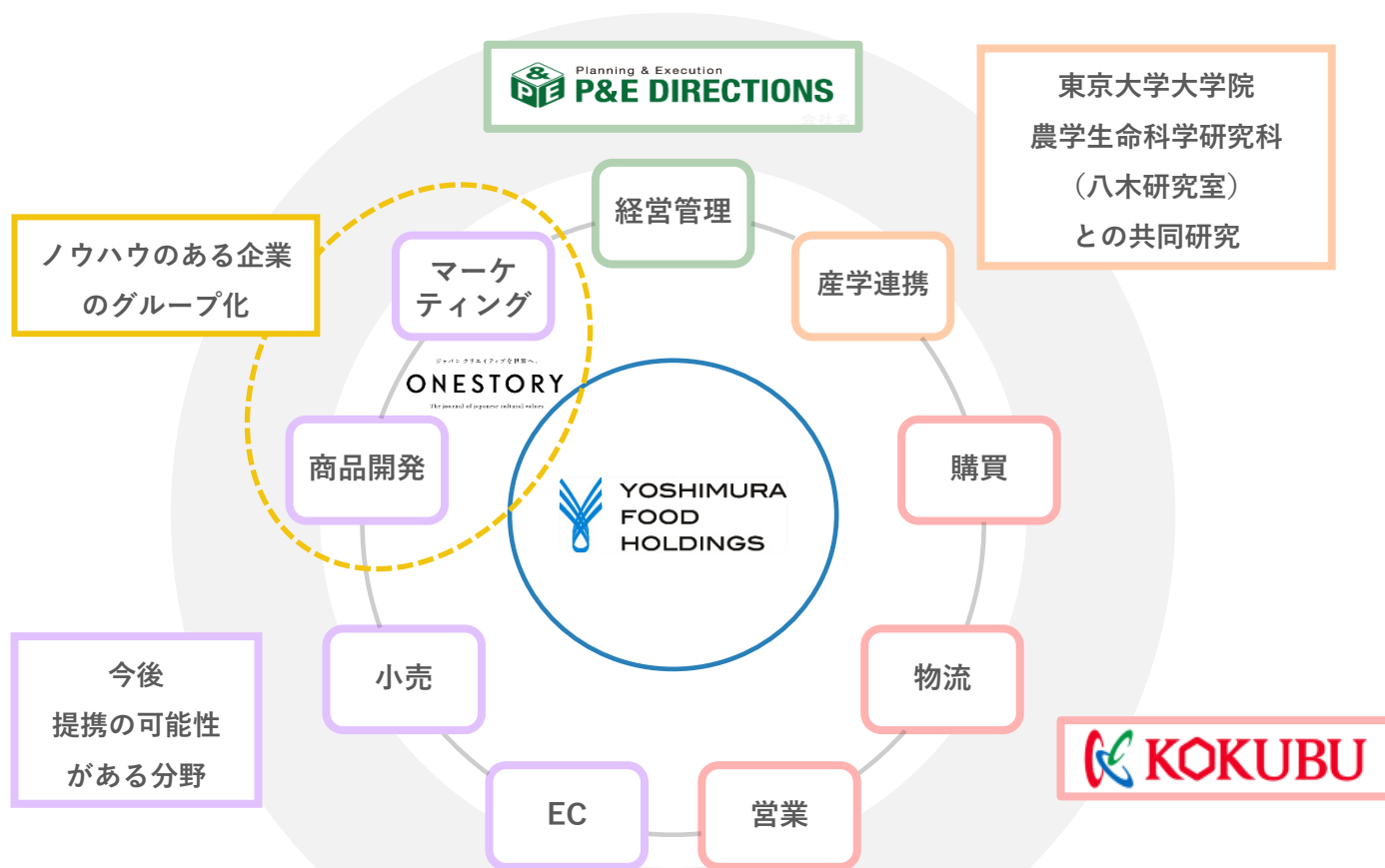
販路拡大・売上増加

傘下のグループ企業

グループ会社の 有機的な相互補完関係

- 会社の壁を越えて
機能ごとに横断的組織を構築
- 各機能別の統括責任者が
グループを横断的に統括
- 各社の持つ強みを
グループ全体で共有し
弱みを補い合う

バリューチェーンごとに最適なパートナーとの提携やM&Aを行うことで、
より一層の成長を目指す



提携先と一体となり中長期的な成長を実現

後継者不在企業を譲り受け、グループ化して活性化する当社の事業は
正に**ESG経営そのもの**であり、ESG経営をより強化することで**持続的な成長を実現**



グループ会社の概要

楽陽食品



シウマイ・餃子

- 国内5か所に工場
- チルドシウマイの生産量は国内トップシェア

白石興産



乾 麺

- 明治19年創業
- 宮城県白石市特産の白石温麺が主力商品

桜顔酒造



日本酒

- 昭和48年岩手県の地場の酒蔵10社で設立
- 県内出荷量2位

オープン



冷凍かきフライ

- 広島産カキを調達する独自ルートを保有
- 鶏なんこつ唐揚げ等も製造

ダイショウ



ピーナッツバター

- ピーナッツバターのパイオニアで、主力商品は30年以上続くロングセラー

雄北水産



まぐろ加工品

- 船凍品のまぐろを使用した、ねぎとろ、まぐろ切り落としを製造販売

純和食品



ゼリー

- 高い技術力と彩の国HACCPに認定された高い品質管理能力

エスケーフーズ



とんかつ

- 「彩の国優良ブランド品」に認証された「むさし野とんかつ」が主力商品

ヤマニ野口水産



水産加工品

- 鮭とばやいくら醤油漬け等北海道の新鮮な原料を使用した水産品を製造

JSTT SINGAPORE



寿司

- シンガポールの工場にて寿司等を製造し、シンガポール大手スーパーへ販売

おむすびころりん本舗



フリーズドライ

- フリーズドライ加工、フリーズドライ製品の製造、非常食の販売

NKR CONTINENTAL



業務用厨房機器販売

- 主にシンガポール及びマレーシアの高級ホテル等へ、業務用厨房機器を設計・製造・施工・販売

香り芽本舗



ふりかけ・スープ

- ソフトタイプのわかめふりかけ、わかめスープ等の自社商品からOEMまで、高品質かつ多様な商品を製造

森養魚場



鮎 (アユ)

- 岐阜県内3ヵ所において、高品質な鮎を養殖、販売
- 高度な養殖技術を有し、子持ち鮎の安定生産が可能

まるかわ食品



ぎょうざ

- 静岡において、秘伝のレシピによるぎょうざを製造
- 自社店舗には行列が絶えない人気店

グループ会社の概要

PACIFIC SORBY



水産加工品

- シンガポールの主要なホテルに対し、自社加工した冷凍ロブスター、カニなどを販売

細川食品



かき揚げ

- かき揚げ、チヂミ、赤飯等の冷凍食品製造
- 野菜加工及び野菜原体の販売

マルキチ



ホタテ

- オホーツク海で獲れた、大粒で肉厚なホタテの加工販売（主に輸出向け）
- サケやカニ等も取り扱う

EXAMAS・EQUIPMAX



業務用厨房機器販売

- マレーシア及びシンガポールのファストフードチェーン等へ、厨房機器の販売・保守サービスを行う

十二堂



ふりかけ

- ソフトふりかけ「梅の実ひじき」等を製造、販売
- 全国に多くのファンを持ち根強い人気を誇る

丸太兵衛小林製麺



生麺（ラーメン）

- 生麺、餃子の皮、たれ等調味料の製造・販売
- 得意先は北海道内外のラーメン店

ワイエスフーズ



ホタテ

- 噴火湾沿岸で漁獲されたホタテの加工販売
- サケ・いくらやイカ等も取り扱う

小田喜商店



栗加工品

- 厳選した良質な地元産の「いわまの栗」を使用した高品質な栗製品を製造・販売

林久右衛門商店



だし

- 明治18年創業経節専門店
- 上質な厳選素材にこだわった削り節、だしの製造加工・販売

富強食品



中華料理材料

- 春巻きの皮を主力商品とした中華食材の製造販売
- 日本で初めて春巻きの皮を製品化した企業

その他

SHARIKAT NATIONAL FOOD



不動産賃貸・管理

- シンガポールにおいて食品工場兼食品用低温倉庫を所有し不動産賃貸業を行う

ONESTORY



マーケティング・コンテンツ開発等

- 地域に眠る「食」や「文化」等を再発掘・再編集し、プレミアムなコンテンツとしてプロデュース

ヨシムラ・フード



業務用惣菜

- 業務用食材の企画・販売が主、自社で物流を持たず、販売先へ直送するビジネスモデルを構築

ジョイ・ダイニング・プロダクツ



宅配等

- 冷凍食品の企画・販売
- 全国の生活協同組合と直接窓口を保有

SIN HIN FROZEN FOOD



水産品卸

- シンガポールの水産品卸
- 主力商品は、エビ、ホタテ、カニ等

本資料の取り扱いについて

- 本資料に記載されている市場環境等の情報に関する記述は、当社が独自で調査を行ったものであり、必ずしもその内容の正確性及び完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来情報に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではなく不確実性を含んでおります。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、監査法人による監査を受けていない管理資料が含まれております。